平成26年度「福島県学力調査」結果について ≪小学校第5学年≫　福島県教育委員会

① 調査趣旨

全県的な規模で児童生徒の学習の実現状況を調査し、学習指導上の課題及び学習指導の改善点を明らかにし、各学校等における改善の取組に資するとともに、学習習慣や生活習慣及び意識等と学力との関連性を分析し、学校を中核としながら地域や保護者と連携して学力向上に取り組む基盤づくりを図る。

② 実施日程

平成26年11月10日（月）～14日（金）

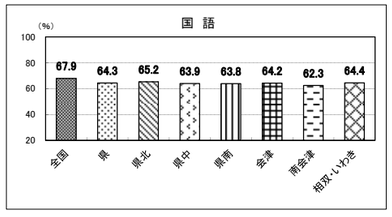
③ 受検人数及び調査時間（小5）

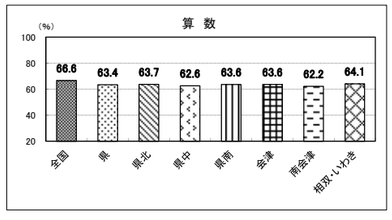
【受検人数】			
国語	算数	理科	意識
16,529	16,531	16,530	16,546
【調査時間】			
45分	45分	45分	30分程度

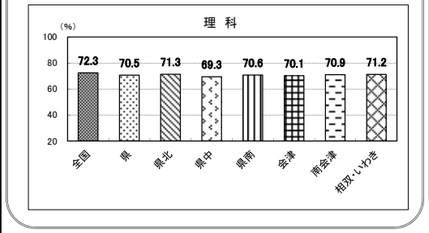
④ 用語の解説

全国：
一部オリジナル問題の想定値を含め算出した値。
偏差値：
全国値を基準（50）にして算出。
意識調査：
帯グラフは各選択肢の割合。縦棒グラフは各選択肢を選んだ集団ごとの３教科平均正答率。

⑤ 生活圏別教科平均正答率







⑥ 結果の概要

１）国語

教科全体の平均正答率は64.3%で、全国の67.9%を3.6ポイント下回っている。

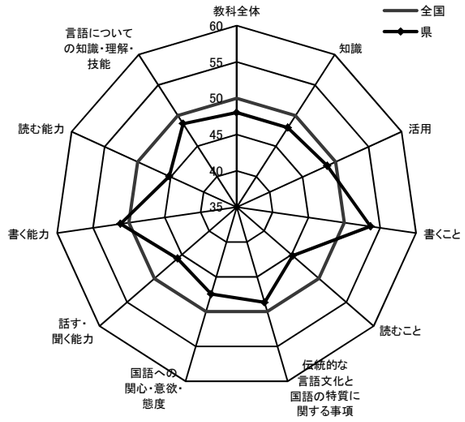
①集計結果（%）

	平均正答率
県	64.3
全国	67.9

②カテゴリー別正答率（%）

分類	区分	県	全国
知識・活用	教科全体	64.3	67.9
	知識	63.7	67.2
	活用	65.1	68.7
領域	書くこと	87.0	75.3
	読むこと	55.9	66.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.8	66.5
観点	国語への関心・意欲・態度	63.5	69.1
	話す・聞く能力	50.4	61.3
	書く能力	70.6	67.2
	読む能力	55.9	66.6
	言語についての知識・理解・技能	63.8	66.5

③偏差値によるカテゴリー間の比較



領域別平均正答率では、「書くこと」が全国を11.7ポイント上回っているが、「読むこと」が全国を10.7ポイント下回っている。
観点別平均正答率では、「書く能力」が全国を3.4ポイント上回っているが、他の観点は全国を下回り、特に「話す・聞く能力」が10.9ポイントと最も下回っている。

２）算数

教科全体の平均正答率は63.4%で、全国の66.6%を3.2ポイント下回っている。

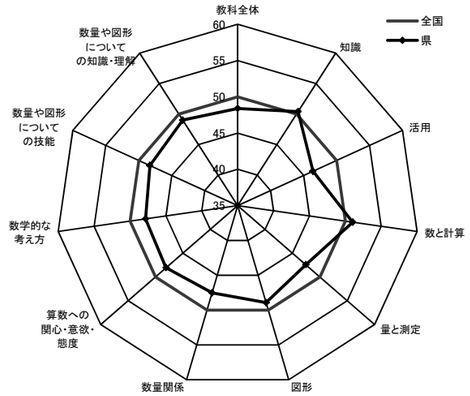
①集計結果（%）

	平均正答率
県	63.4
全国	66.6

②カテゴリー別正答率（%）

分類	区分	県	全国
知識・活用	教科全体	63.4	66.6
	知識	70.0	69.2
	活用	49.6	61.0
領域	数と計算	73.6	71.6
	量と測定	54.4	62.9
	図形	64.5	67.0
	数量関係	57.9	62.8
観点	算数への関心・意欲・態度	57.1	62.9
	数学的な考え方	53.6	58.9
	数量や図形についての技能	66.4	69.5
	数量や図形についての知識・理解	63.1	65.4

③偏差値によるカテゴリー間の比較



領域別平均正答率では、「数と計算」が全国を2.0ポイント上回っているが、他の領域は全国を下回り、特に「量と測定」が全国を8.5ポイント下回っている。
観点別平均正答率では、すべての観点が全国を下回り、特に「算数への関心・意欲・態度」が5.8ポイントと最も下回っている。

３）理科

教科全体の平均正答率は70.5%で、全国の72.3%を1.8ポイント下回っている。

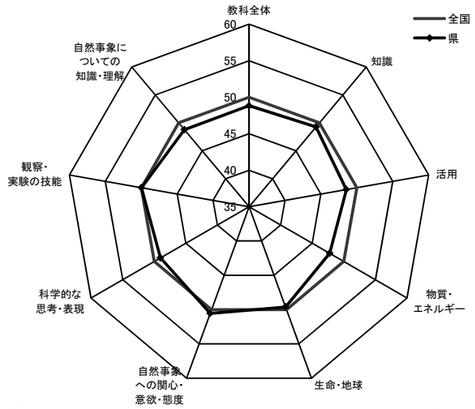
①集計結果（%）

	平均正答率
県	70.5
全国	72.3

②カテゴリー別正答率（%）

分類	区分	県	全国
知識・活用	教科全体	70.5	72.3
	知識	76.0	77.1
	活用	60.0	63.2
領域	物質・エネルギー	57.3	61.7
	生命・地球	76.4	77.0
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.2	68.1
	科学的な思考・表現	67.0	68.7
	観察・実験の技能	74.8	74.9
	自然事象についての知識・理解	70.1	72.1

③偏差値によるカテゴリー間の比較



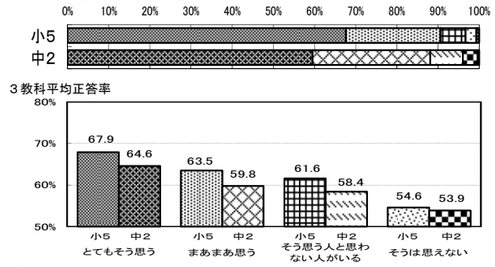
領域別平均正答率では、すべての領域が全国を下回り、特に「物質・エネルギー」は4.4ポイント下回っている。
観点別平均正答率では、「自然事象への関心・意欲・態度」が全国を1.1ポイント上回っているが、他の観点は全国を0.1～2.0ポイント下回っている。

４）意識調査

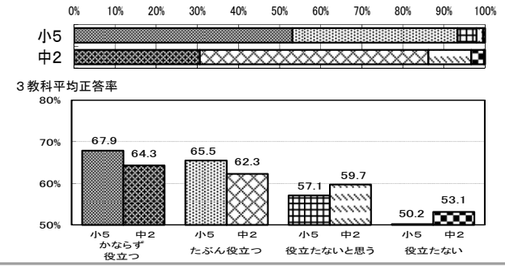
※④～⑥の３項目については、裏面に記載。

家族のささえや学ぶ意義の理解、積極的に思いを伝える力は、教科学力との関連が深い。

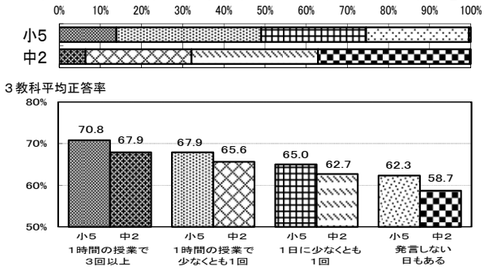
①「家の人は、あなたにとって、かけがえのない存在だと思いますか」



②「学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」



③「あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか」



「家の人は、かけがえのない存在だと思う」「学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」「学校生活の中で自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりする」と、肯定的に回答している児童生徒の方が、教科正答率が高い傾向にある。
また、①「そうは思えない」、②「役立たない」、③「発言しない日もある」と回答している児童生徒の教科正答率が、低くなっていることが分かる。